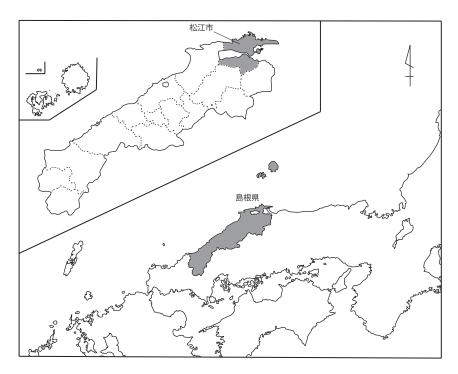
埋蔵文化財課年報〈25〉

令和2年度



2022 年 2 月 公益財団法人 松江市スポーツ・文化振興財団



松江市位置図

表紙写真:櫨岡古墳群出土玉類

第1章 公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団の沿革と組織

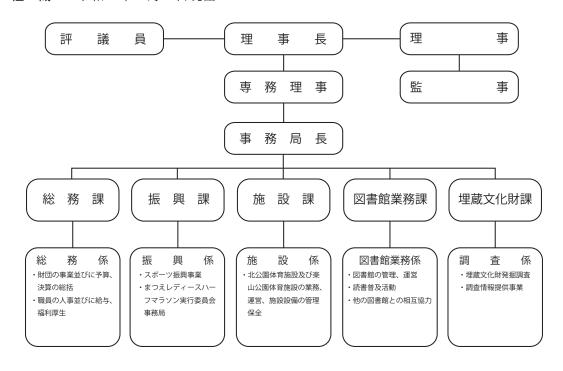
- ◇ 設 立 昭和51年(1976年)4月1日 財団法人松江市教育文化振興事業団を設立。
- ◇ 沿 革 平成25年(2013年)4月1日

公益財団法人松江市スポーツ振興財団に移行。

平成28年(2016年)7月1日

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団に名称変更。

- ◇ 所在地 松江市末次町 86 番地
- ◇ 目 的 この法人は、教育・スポーツ・文化の振興に関する事業を行い、もって市政の発展 と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。
- ◇ 事業 (1) スポーツをとおして市民の健康な心とからだをつくり、生涯スポーツの普及・ 振興を目的とする事業。
 - (2) すぐれた芸術文化や文化情報に接する機会の提供と市民に新しい芸術文化の創造と活動の拠点とし、文化活動の普及に関する事業。
 - (3) 多様化する市民の学習ニーズや図書館サービスへの対応を図り、市民に親しまれる文化の広場としての役割を高めることで、読書普及活動推進に関する事業。
 - (4) 埋蔵文化財の適切な保護及び活用のため、発掘調査・研究・出土品の収集・整理及び調査結果の情報提供を行う事業。
 - (5) 児童及び青少年の健全な育成を目的とする事業。
 - (6) 教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営に関する事業。
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業。
- ◇ 組織 令和2年4月1日現在



◇ 埋蔵文化財課

設 立 平成5年7月1日

所 在 地 〒 690-0401 島根県松江市島根町加賀 1263-1

T E L 0852-85-9210

F A X 0852-85-3611

業務 1) 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

2) 埋蔵文化財課の庶務経理 (予算及び決算を含む) に関すること。

◇ 令和2年度 職員体制

 理事長
 星野芳伸

 専務理事
 安部 隆

 事務局長
 菅井公治

 埋蔵文化財課長
 宮本英樹

 調査係長
 小山泰生

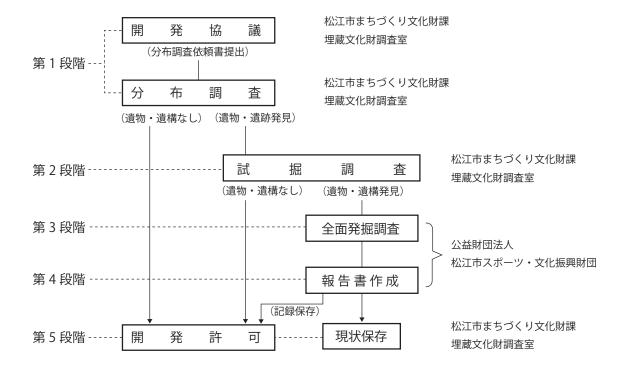
 主任
 江川幸子

嘱託職員(調査員) 廣濱貴子 徳永桃代

嘱託職員(調査補助員) 北島和子 宇津直樹 木村由希江 福光龍治 建神結香子

嘱託職員(事務) 曽田 健 田中由巳 中釜拓生

◇ 松江市埋蔵文化財業務フローチャート



第2章 令和2年度事業の概要

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団埋蔵文化財課では、令和2年度において4班体制で、7遺跡の発掘調査業務・2冊の発掘調査報告書作成業務・1遺跡の遺物整理業務を行った。事業の概要は以下のとおりである。

1. 発掘調査業務

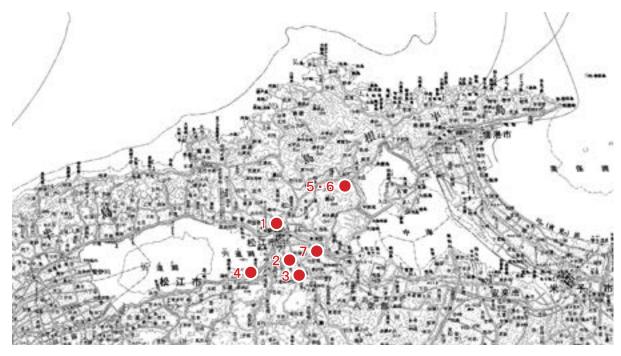
松江法務総合庁舎新営工事に伴う松江城下町遺跡(母衣町 50 外)、アバンシティ樹造成工事に伴う乃木西廻遺跡、(仮称)アークタウン大庭造成工事に伴う大庭小原遺跡、山林崖崩れ対策工事に伴う本船木窯跡、新庄地区農地中間管理機構関連農地整備事業に伴う新庄寺ノ前遺跡および本庄川流域条里制遺跡、(仮称)グリーンテラス東津田団地造成事業に伴う櫨岡古墳群(1~6号墳)の7遺跡の発掘調査を実施した。

2. 報告書作成業務

山陰電力所設置工事のうち付属建物新築工事に伴う松江城下町遺跡(母衣町 115)、宅地造成工事に伴う神田Ⅱ遺跡の2冊の発掘調査報告書を刊行した。

3. 出土遺物整理業務

令和元年度に発掘調査を実施した朝酌矢田地区共同墓地整備事業に伴う若宮谷遺跡では、中世の貝塚を検出しており、令和2年度事業として貝層洗浄作業および動物遺存体の選別・分類作業などの出土遺物整理業務を行った。



令和2年度発掘調査実施箇所位置図

- 1. 松江城下町遺跡(母衣町 50 外)
- 2. 乃木西廻遺跡
- 3. 大庭小原遺跡

- 4. 本船木窯跡
- 7. 櫨岡古墳群(1~6号墳)
- 5. 新庄寺ノ前遺跡
- 6. 本庄川流域条里制遺跡

松江城下町遺跡(母衣町 50 外)

1. 所 在 地 松江市母衣町 50 番地外

2. 調査面積 872㎡

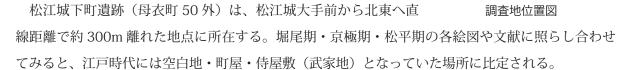
3. 調査期間 令和2年8月17日~令和3年3月16日

4. 調 査 原 因 松江法務総合庁舎新営工事

5. 遺跡の種別 城下町

6.遺跡の年代 近世

7. 調査の概要



調査区の設定は、法務局現庁舎の西側駐車場部分を調査1区、現庁舎の建物基礎部分を調査2区として調査を進めた。調査の結果、調査1区では、18世紀代~19世紀代前半の土坑・井戸を検出した第1遺構面、17世紀代前半の礎石建物跡・屋敷境・溝・通路跡や17世紀代前半~後半の土坑を検出した第2遺構面、17世紀代初頭~前半の屋敷境・溝・土坑・島状整地を検出した第3遺構面、城下町形成以前の旧地表面に位置付けられる第4遺構面を検出することができた。

調査2区では、現庁舎の建物基礎および地中梁が残った場所で調査を実施したために、狭小な調査面積ではあったものの、上層の撹乱を免れた17世紀代初頭〜前半の堀尾期の遺構面が遺存していたことから、当該期における屋敷境や土取穴などの遺構を検出することができた。

今回の大きな調査成果として、調査 1 区の第 2 遺構面で検出した礎石建物 SB01 およびその付属施設が挙げられる。これらの遺構は、京極絵図(1634 ~ 1637 年)に記載されている南北方向の短冊状に配置された町屋の一画に該当する遺構群で、これまでに実施されてきた松江城下町遺跡の発掘

調査においても極めて検 出事例が少ない、京極期 に位置付けることが可能 な遺構群と評価できる。

そして、特に第2遺構 面の調査区内北半から出 土した陶磁器については 京極期の陶磁器組成を示 していることが考えられ るため、今後重要な資料 となり得るであろう。





調査1区 17世紀前半の京極期の礎石建物跡 SB01 (南西から)



寛永年間松江城家敷町之図(京極期)

この絵図は現存する松江城下町絵図のうち、寛永年間松江城家敷町之図(香川県丸亀市立資料館所蔵)の一部を抜粋した絵図である。絵図の作成年代は 1634 ~ 37 年の京極期に比定する。

絵図に黒枠線で囲った場所が、平面図に図示した発掘調査推定箇所である。絵図中の堀に面する場所に短冊状に描かれているのが町屋で、その下側には侍屋敷(武家地)が描かれている。礎石建物 SB01 は、この町屋の裏手の一画に存在していた遺構を検出したものと考えられる。



松江城下町遺跡(母衣町 50 外) 第 2 遺構面 礎石建物 SB01 および周辺遺構平面図(S=1:100)

乃木西廻遺跡

1. 所 在 地 松江市上乃木 4 丁目 2003 番地 2 外

2. 調査面積 2,836㎡

3. 調 査 期 間 令和 2 年 4 月 1 日~ 9 月 3 日

4. 調 査 原 因 宅地造成工事

5. 遺跡の種別 集落跡

6. 遺跡の年代 縄文時代・弥生時代・古墳時代・中世・近世

7. 調査の概要

乃木西廻遺跡は、低丘陵(大庭段丘)の最高所、標高 17.0m 前 後の広い平坦地に位置している。



調査地位置図

この場所は縄文時代には狩場として利用されていたようで、24 基の落し穴を検出した。弥生時代後期前葉から古墳時代前期後葉にかけては断続的に集落が営まれている。弥生時代後期の建物跡を7棟・掘立柱建物跡を1棟、古墳時代前期の掘立柱建物跡を4棟、その他古墳時代後期に類例がある小型無柱の竪穴建物跡を1棟検出した。

調査区南端付近では柱穴間が浅い溝で繋がれる「溝もち」掘立柱建物跡と思われる遺構を 1 棟検 出した。時期については不明であるが、現時点では島根県内で類例をみない遺構である。

中世以降には柵を伴う大型の掘立柱建物跡を 7 棟、一部重複した状況で検出した。規模の大きさや規格性の存在から、何らかの継続的な施設が置かれていたものと思われる。 (江川幸子)



調査区北側完掘状況(南西から)



乃木西迴遺跡遺構配置図(S=1:400)

大庭小原遺跡

1. 所 在 地 松江市大庭町 1102 番地 2

2. 調査面積 1,460㎡

4. 調 査 原 因 宅地造成工事

5. 遺跡の種別 集落跡

6. 遺跡の年代 弥生時代・古墳時代・古代

7. 調査の概要

大庭小原遺跡は、標高 100 ~ 200m の山地から北に向かって舌 調査地位置図 状に派生する低丘陵(大庭段丘)の末端付近に位置する。標高 18.0m 前後で平坦地が広く、周囲の 田面との比高は 1.0 ~ 7.0m 程度である。

この場所で最初に集落が営まれたのは弥生時代中期である。調査では当該期の住居跡は検出できなかったが、袋状貯蔵穴(断面がフラスコ状の土坑)を3基検出し、その中から土器片とともにグリーンタフが出土した。遺物包含層から管玉未成品と玉砥石が出土し、当地にて玉作が行われていた可能性が考えられた。その後、古墳時代中期末の遺構として、竪穴建物を2棟並んだ状態で検出した。1棟はガラス質に変化した炉跡を伴うもので、何らかの工房が存在していたことが窺える。

今回の調査で大庭小原遺跡に新たな知見が増え、平成26年に実施した調査成果と同丘陵上にある 砂口遺跡の成果を整合すると、当遺跡では弥生時代中期以降、断続的に現代まで集落が営まれてきた ことが明らかとなった。 (江川幸子)



工房跡の可能性がある2棟の竪穴建物(東から)

本船木窯跡(2号窯)

1. 所 在 地 松江市玉湯町布志名 422 番地 4 外

2. 調査面積 221㎡

3. 調査期間 令和2年4月14日~5月29日

4. 調査原因 山林崖崩れ対策工事

5. 遺跡の種別 生産遺跡

6. 遺跡の年代 近世・近代

7. 調査の概要

本船木窯跡は、宍道湖の南東岸にわずかに突き出た若山と呼ばれ



調查地位置図

る丘陵上に位置する。調査地周辺では、寛延3 (1750) 年以降に「布志名焼」と呼ばれる陶器の生産が始まったことが知られている。

調査開始以前から丘陵南東側が直角に削平され、この法面にレンガ・来待石・陶器片が貼り付いている箇所を確認していた。この法面を断ち割るように試掘トレンチを入れた後、面的に表土を掘削したところ、この法面は明治~大正時代に存在した建物基礎の一部や階段の跡であることが分かった。

これらの遺構を記録してさらに掘り下げたところ、調査区東壁沿いで窯の最上部と2つの焼成室を検出した。この焼成室の間では通焔孔と思われるレンガの並びも確認できた。焼成室には窯壁も一部残っており、窯の検出規模は幅2.7m、内法2.5m、長さ6.6mを測る。窯の形状は、南側に向かって地山を階段状に掘削した連房式登窯と考えられる。

遺物は、焼成室から窯道具とともに擂鉢・甕が主に出土し、その他に布志名焼の青地碗・灰釉碗・ 素焼きのぼてぼて茶碗などが出土した。窯の西側には段状の空間と柱穴が存在し、作業場が存在した ことも判明した。また、窯跡と作業場を取り囲むように排水溝が設けられている。周辺の物原から焼

き損じた陶器片や不要と なった窯道具、炭や焼土 などが大量に廃棄されて いた。寛永通宝も物原か ら出土している。

このことから、江戸時 代から使用していた布志 名焼の窯跡の可能性が高 いことが考えられ、今回 の調査によって布志名焼 の窯跡の様相がわかる貴 重な成果が得られた。



(徳永桃代)

本船木窯跡(2号窯)完掘状況(南から)

新庄寺ノ前遺跡

1. 所 在 地 松江市新庄町 525 番地外

2. 調査面積 303㎡

3. 調査期間 令和2年6月29日~8月27日

4. 調 査 原 因 圃場整備事業

5. 遺跡の種別 散布地

6. 遺跡の年代 縄文時代~中世

7. 調査の概要

寺ノ前遺跡は、嵩山から派生する丘陵端部の水田地に存在する。



調查地位置図

調査地西側の丘陵には以前に寺があったとされ、「寺ノ前」という小字名が残っている。また、古代 には条里制により区画された水田があったとされる場所でもある。

調査は1区と2区と分けて実施した。1区では、遺構・遺物は確認できなかった。2区では、標高約4.5mで層厚約50cmの粘土質の遺物包含層を確認した。遺物包含層上面では遺構は確認できなかったが、包含層からは縄文時代から中世にかけての土器・土師器・須恵器・中世陶磁器のほかに木製品・黒曜石が混在する状態で出土した。遺物はいずれもかなり摩滅していた。

この遺物包含層の粘土層を自然科学分析にかけたところ、イネの花粉が多く検出され、ここで水田 耕作が行われた可能性が高いことが判明した。また、遺物包含層を取り除いたところ、礫を含む洪水 堆積層を検出した。この洪水堆積層上面で有機物が堆積する範囲も確認した。このほかピットや杭を 検出したが、施設の構造を推定できるものではなかった。

今後は、一昨年度および昨年度に実施した調査成果を含めた遺物の様相などを総合的に分析することで、当地域の歴史の解明がさらに進展することを期待したい。 (徳永桃代)



寺ノ前遺跡 2区完掘状況(北西から)

本庄川流域条里制遺跡

1. 所 在 地 松江市新庄町 304 番地外

2. 調査面積 ①寺ノ前 9㎡ ②相ケ坪 468㎡

3. 調査期間 令和2年10月20日~12月22日

4. 調 **查** 原 **因** 圃場整備事業

5. 遺跡の種別 散布地

6. 遺跡の年代 古墳時代〜近世

7. 調査の概要

調査地は嵩山から派生する丘陵端部の水田地に存在する。周辺の



小字名あるいは地形から古代条里制の区画が残されている可能性が高いと思われる場所にトレンチを設定して調査を行った。1 つは「寺ノ前」の小字名が残る大畦畔が想定される場所に $1.5m \times 6m$ のトレンチ、もう1 つは「相ヶ坪」の小字名が残る小畦畔が想定される場所に南北 $4m \times 52m$ ・東西 $4m \times 57m$ のトレンチ、北側の大畦畔が想定される場所に $4m \times 10m$ のトレンチをそれぞれ設定して調査を行った。

調査の結果、「寺ノ前」では畦畔が2回造り直されていることが土層断面で確認できた。この畦畔に対応するように粘土層の水平堆積が認められ、これが水田跡と考えられた。しかし、古代の遺物は出土していないため、古代の条里に伴う水田跡とは断定ができなかった。

「相ヶ坪」では、まず小畦畔と水田跡の痕跡を見つけるために、東西南北に長いトレンチを設けて掘削した。洪水堆積層直上の粘土層から須恵器片と混在して中近世の陶磁器が出土したため、近世以降に改変された水田跡と考えられた。また、現代の畦畔の下から杭列を検出しているが、これらも近世以降の杭列と思われる。このほか、北側の大畦畔が想定される場所にトレンチを設けて掘削したところ、現代の畦畔の下で4度程度の造り替えが行われた痕跡があり、この畦畔に対応するように水田跡と思われる粘土層の堆積を確認した。しかし、最下層の粘土層から肥前陶器が出土したため、

17世紀以降の水田跡と考えられた。

今回の調査では古代の条 里遺構は確認できなかった が、条里推定箇所に畦畔が 繰り返し造り替えられてい ることが判明した。

古代から現代まで条里が 踏襲されてきた可能性を示 唆するものと考えられる。



造り替えられた畦畔と水田跡の土層断面(西から)

(徳永桃代)

櫨岡古墳群

1. 所 在 地 松江市東津田町 2022 番地

松江市山代町 929 番地 2 他

2. 調査面積 1,157㎡

4. 調 査 原 因 工業団地造成工事

5. 遺跡の種別 古墳

6. 遺跡の年代 古墳時代

7. 調査の概要



調查地位置図

櫨岡古墳群は、松江市南郊の丘陵上に位置し、宍道湖から中海へ東西に流れる大橋川南岸に所在する。本古墳群の南側には出雲地方東部の首長墓群が存在し、さらにその南側には古代の政治の中心となっていた出雲国府跡が所在する。

本古墳群は、丘陵尾根上に造られた小規模な 6 基の古墳群である。方墳 2 基 (4・6 号墳)、円墳 4 基 (1~3・5 号墳) からなり、規模は径・一辺が約 7~15 mを測る。盟主墳は、規模では 1 号墳が最大であるが、最高所に位置し『出雲国風土記』に「神名樋野」と称される茶臼山を正面に眺望できる 3 号墳と考えられる。古墳の新旧関係は、墳形や周溝土層の切り合いから 6 号墳 \rightarrow 4 号墳 \rightarrow 3 号墳 \rightarrow 2 号墳 \rightarrow 1 号墳の順に築造されており、5 号墳については 4 号墳よりも後出するようである。

埋葬主体は、2~5号墳が箱式木棺、6号墳が刳り抜き木棺である。出土遺物は周溝や主体部から 土師器の壺・甕類や金属製品・石製品・玉類が出土している。そのなかの玉類は、1号墳は主体部内、 3号墳は棺外、6号墳は棺内から出土した。3号墳の玉類は、10cm四方の範囲から勾玉・管玉・ガラ

ス小玉が纏まって出土しており、出土位置から埋葬後に置かれたものと考えられる。6号墳からは勾玉・管玉・臼玉などが出土し、いずれも3号墳より大きいものである。

本古墳群は、古墳の規模から有力家長クラスの墓と推測される。また、出土した遺物の時期から古墳時代前期末から須恵器出現以前の中期前半と考えられる。 (廣濱貴子)



櫨岡古墳群全景(北東側上空から)



櫨岡古墳群調査後地形測量図(S=1:300)

第3章 令和2年度以前の調査

H29 年度以前の調査は www.matsue-sposhin.jp/maibun_cyousa.html を参照ください。

	1	1	ww.matsuc-sposinii.jp/maibun_cyousa.ntmi	
年度	遺跡名	所 在 地	遺跡の概要	報告書
Н 29	松江城下町遺跡	殿町 198-7	城下町形成段階に掘削された推定幅 4.0m の素掘りの大溝を検出。18 世紀代の遺構面から上水井戸を検出。	2018刊
Н 29	柏木遺跡	西持田町	前年度継続。弥生時代中期後半から中世後半の遺物包含層を調査。	2018刊
H 29	礫岩古墳	野原町	かつて古墳が存在したと考えられるが、のちに山城築城のため、削平される。山城の竪堀や加工段を検出。	2018刊
H 29	朝酌橋ノ谷遺跡	朝酌町	弥生後期から古墳前期の竪穴建物、古代の掘立柱建物などを検出。	2018刊
H 29	朝酌菖蒲谷遺跡	朝酌町	前年度継続。古墳時代の土器棺墓を検出。その他に奈良時代の集落跡や道 路遺構を検出。	2018刊
Н 29	海崎古墳群	美保関町	古墳時代中期から後期の古墳群。竪穴系横口式石室と横穴式石室を調査。	2018刊
Н 29	福浦法田峠 2号墳	美保関町	報告書編集事業。小規模な横穴式石室墳の調査。2 次墳丘、古墳築造前の 祭祀を確認。	2018刊
Н 30	白岸古墳群	黒田町	古墳時代中期の小規模古墳群。主体部は素掘りの土壙。	2018刊
Н 30	朝酌矢田遺跡	朝酌町	近世の建物跡の一部を検出。縄文時代・古代の遺物を少量確認。	2019刊
Н 30	堤ノ上遺跡	東持田町	弥生時代から近世の複合遺跡。古墳時代中期と古代の掘立柱建物を中心と する集落。近世墓群も検出。	2019刊
Н 30	朝酌菖蒲谷遺跡 (低地部)	朝酌町	斜面部から転落した古代を中心とする遺物包含層を調査。下層から縄文時 代の貯蔵穴を検出。	2021刊
Н 30	ドロケ遺跡 (1区)	新庄町	古代を中心とする旧河道を検出。大量の遺物が出土。円面硯の焼損品などが出土。上流に窯跡の存在を推定。	2023 予
Н 30	南外古墳群 (3・4・5 号墳)	東津田町	3号墳:円墳。4号墳:方墳。5号墳:帆立貝型前方後円墳。古式の横穴 式石室基底部のみ残存。	2023 予
R 1	松江城下町遺跡	母衣町 115	城下町初期造成段階に施された島状整地の盛土痕跡を検出。19 世紀代の 遺構面から石組水路・廃棄土坑を検出。	2020刊
R 1	若宮谷遺跡	朝酌町	谷地形に堆積する古墳時代から古代の遺物包含層を調査。調査区西側では 中世の混貝土層(貝塚)を検出。	2021刊
R 1	ドロケ遺跡 (2区)	新庄町	前年度のドロケ遺跡 1 区の調査で検出した自然流路の続きを面的に確認。 古代の須恵器・土師器等の遺物が大量に出土。	2023 予
R 1	新庄谷内遺跡	新庄町	多数の柱穴を検出し、8 棟の掘立柱建物を想定復元。古墳時代から古代の 遺物包含層を調査。	2022 予
R 1	神田Ⅱ遺跡	大庭町	掘立柱建物・加工段等を検出。古代の須恵器・土師器等の遺物が出土。	2021刊
R 1	岩井手谷遺跡	東津田町	縄文時代・古墳時代中期・古代の3時期にわたる遺構と遺物を検出。	2023 予
R 1	南外古墳群(5号墳)	東津田町	前年度継続。5号墳:帆立貝型前方後円墳。古式の横穴式石室基底部のみ 残存。墳丘旧表土面以下から旧石器時代の石器が出土。	2023 予
R 1	奥宇田瀬遺跡	東津田町	竪穴建物・掘立柱建物・加工段・狩猟用の落とし穴等を検出。竪穴建物は 建て替えを含めて 19 棟確認。水晶の玉製作を主とした工房跡も検出。	2023 予
R 1	乃木西廻遺跡	上乃木	縄文時代の狩猟用の落とし穴、弥生時代後期の竪穴建物 5 棟を検出。	2021刊
R 2	松江城下町遺跡	母衣町 50 外	17世紀初頭~19世紀後半までの武家地を調査。17世紀前半の遺構面から京極期の町屋に伴う礎石建物を検出。	2022 予
R 2	乃木西廻遺跡	上乃木	前年度継続。縄文時代の狩猟用の落とし穴 24 基、弥生時代後期から古墳 時代前期の竪穴建物 12 棟、中世以降の掘立柱建物 10 棟を検出。	2021刊
R 2	大庭小原遺跡	大庭町	弥生時代中期の袋状貯蔵穴3基、古墳時代中期末の竪穴建物2棟を検出。	2012刊
R 2	本船木窯跡	玉湯町	江戸時代の布志名焼窯跡群を調査。連房式登窯で、窯の最上部と焼成室 2 室を検出。物原から焼き損じた陶器片や窯道具が多数出土。	2022 予
R 2	新庄寺ノ前遺跡	新庄町	縄文時代から中世の遺物包含層を調査。縄文土器・土師器・須恵器・中世 陶磁器が出土。包含層の下層に堆積する洪水堆積層を検出。	2022 予
R 2	本庄川流域 条里制遺跡	新庄町	古代の条里遺構は検出できなかったが、数回にわたって改変されている中世から近世の水田跡を検出した。	2022 予
R 2	櫨岡古墳群 (1~6号墳)	東津田町	古墳時代前期末から中期前半の古墳群。4・6 号墳:方墳。1・2・3・5 号墳:円墳。	2023 予

埋蔵文化財課年報〈25〉

2022年2月発行

編集・発行

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

印刷

株式会社谷口印刷 島根県松江市東長江町902番地59